

二〇二一年度・学力考查問題【国語】

(中学第三回)

注意

- 一、試験時間は50分です。
- 二、答えはすべて解答用紙にはつきりと記入しなさい。
- 三、解答用紙のみ試験終了後集めます。
- 四、問題は11ページで**一・二・三**の三題あります。開始の合図で必ず確認し、そろっていないう場合にはすぐに手をあげなさい。
- 五、本文の表現については、作品を尊重し、そのままにしてありますが、設問の都合上、省略した部分、表記を改めた部分があります。
また、特に指示のないかぎり、句読点なども一字に数えます。

線あくのひらがなを漢字に直しなさい。

- 1 ヨットレースに参加し、沖縄から横浜までこうかいする。
- 2 アルプスさんみやくのふもとに、その会場がある。
- 3 入場行進では、きしゅを務めた。
- 4 カメラをかりて、記念撮影を行う。
- 5 そのカメラのせいのうの高さに驚いた。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

- 【登場人物】
- ・茜：高校一年生。桜子の「チャイルド」。
 - ・桜子：茜と同室の三年生。模範生で生徒会長。茜の「マザー」。
 - ・朝子：二年生。桜子を慕っているため、彼女の「チャイルド」である茜のことが気に入らない。
 - ・千尋：茜と同室の三年生。
 - ・真琴：茜と同室の一年生。
 - ・まゆりさん：寮母（＝寮で暮らす生徒たちの世話をする女性）。
- 「茜」は、現在全寮制の女子高校の一年生。中学生の途中までは、母親と母親の交際相手の男性と三人で住んでいたが、その男性か

ら暴力をふるわれていた。その後、母方の祖父母の家に引っ越したが、ある日母親が茜を残して行方をくらませてしまった。そこでは、同室の三年生「桜子」と、「マザー」と「チャイルド」と呼ばれる、あらかじめ学校で決められた関係になつた。なお、「マザー」は、一年生（＝チャイルド）の世話をすることになつている。

談話室の前を通ると、誰かの怒鳴り声がした。茜がそつと入り口を見くと人だかりの中心で千尋が真っ赤な顔をしているのがちらりと見えた。「ちょっと茜さんも来てください？」と桜子に手招きされた。「……どうしたんですか？」

茜が訊ねると、

「千尋さんの絵が、誰かに破かれたんですって」

眉を下げた桜子がそう答えた。

「今日放課後に美術室に行つたら、画用紙が真っ二つに破かれて床に捨ててあつたんだよ。よりもよつて、真琴の肖像画！ 人の顔を半分に破ることができるのでどういう神経してんだよ？ ちゃんと名乗りでな！」

いつも達観したようにサバサバとした態度の千尋の乱れ具合に、茜は驚きを隠せなかつた。それだけ彼女にとつて大切な物だったのだろう。

「誰か何か見た人はいないわけ？」

千尋の問いかけに、そろそろと手を挙げた人がいた。朝子だつた。

「私、昼休みに、おかしな人を見ました」

頬を赤くさせそう言う朝子は、視線を茜の方に向けた。

「茜さん。あなたの昼休みに美術室に行つていたわよね？」 私、四階から降りてくるあなたを偶然見かけたの。四階には美術室しかないわよね？ 美工コースでもないあなたが、そんなところで何をしていたの？」

¹ 呼吸が荒くなつた。

「私は、屋上でお弁当を食べてただけで」

「あら、どうやつて屋上に入つたの？ 美術室を通らないとあそこへは行けないはずよ？」

「真琴さんに教えてもらつたんです」

朝子に訊ねられた真琴は、「はい」と答えた。

「でも、私は茜さんが一人でいるところを見たのよ？」

「それは私が先に帰つたからだと思いますけど」

朝子はふつと鼻で笑い、

「要するに、たつた一人で美術室にいた時間が、茜さんにはあつたつてことでしょう？」

² チエシャ猫のようないやらしい笑いを浮かべると、まるで犯人を見るように茜を品定めした。

「私、やつてません」

体中の毛穴がぶわっと広がつてゐるのが分かつた。朝子という人間

が気持ち悪かつた。桜子のチャイルドであるのが気に食わないという理由だけで、冤罪を作ろうとしている。絶対に屈してなるものかと、

茜は彼女を睨みつけた。

けれど、談話室の人だかりは茜を犯人だと決めつけて疑つていないと様子だった。こそこそと耳打ちし合う言葉は、どうしてこうもはつきり聞こえるのだろう。体中が耳になつてしまつたようだつた。

「ちゃんと謝りなさいよ。悪いことをしたら謝りなさいつて親に習わなかつた？」

かつと顔が赤くなるのが分かつた。^{※3} 何人の父親や、祖父母に言われたことだつた。

お前は本当に謝るつてことを知らない。母親の髣が悪かつたんだな。スカートの横で握りしめた拳が痛かつた。

どうして自分が悪くないことで謝らなければいけないのだろう。絵なんて破つていない。お風呂の火をつけることはずっと許されて

いたことだつたし、百点満点を取れなくたつて殴られるほどのことではなかつたはずだ。掃除が下手だ、料理がまずい、洗濯物に汚れが残つてゐる。お前なんかいなければよかつた。

生まれてきてごめんなさい。

そう土下座でもすればよかつたのだろうか。

³ 瞳の縁に薄つすら水分が溜まり、絶対にこぼしてたまるかと前を向いた。

「茜さんじゃないわ。だつて、私、茜さんと一緒にだつたもの」

誰よりも穏やかで、それなのに強い声だつた。

「桜子先輩、何を言われてるんですか？」 だつて、私、茜さんが一人でいるのをはつきりこの目で……」

「それは私がお弁当箱を屋上に忘れたからよ。取りに帰るのを待つて

いてもらうのは悪いから先に行つておいてと頼んだの。だからうつかり授業に出るのに遅れたのよ。ねえ、千尋さん？」

千尋は、それは間違いない、と答えた。
「桜子が授業に遅れるなんて滅多にないからどうしたのかとは思つた？」
「ありがとうございます、千尋さん。ああ、でも、そうね。朝子さんの謎解きだと、一人だつた私にはアリバイがないわ。じゃあ次の容疑者は私かしら？」

「いえ、そんな……。桜子先輩がそんなことをするはずがないじやないですか」

桜子はつっこり微笑んだ。

「そうね。私はそんなことしてないもの。そして茜さんも自分は違うと言つてるの。ねえ、みんな。証拠もないのに同じ寄宿舎の仲間を疑うようなことはやめましょう？ そんなことをしたつて何も解決しないわ。もし、ここに誰か犯人がいたら、みんなの前じゃなくていい。後でこつそり千尋さんに謝つて。一人が怖いなら、私でも、まゆりさんでもいいわ。相談してちようだい。少なくとも、あなたがこんな風に犯人探しをする理由はないわ。そうじやない？ 朝子さん」

4 真っ青な顔をして、朝子は、はい、と頷いた。

「さあ。もう夕飯の時間まで十分しかないわ。遅れたら食堂のみなさ

んに迷惑をかけるわよ。いそいでいそいで！」

5 ばんばんと手を鳴らすと、みんなが笑顔で外へ出ていった。まるで絵本の中の魔法使いのようだつた。さつきまでいっぱいだつた談話室には茜と桜子の二人しかいなくなつた。

「……どうして嘘をついたんですか」

茜は桜子を睨んだ。

「一緒に弁当を食べてなんていない。私は屋上で一人だつた」

「だつてああでも言わないと朝子さんは納得しないわ。の人、少ししつこいところがあるから。いいじやない。私はあなたがやつていなって分かるもの」

「どうして」

「だつて、私はあなたのマザーよ？ あなたのことを探が信じないで誰が信じるの？」

理由にもならない理由を、堂々と言つてのける桜子が、眩しかつた。落ち着いたら食堂にいらして、と、桜子はハンカチを茜の手に握らせ、談話室を出ていった。白い緑のハンカチに淡いピンク色の桜の花が刺繡してある。

もう一度、信じたい。

マザーとチャイルド。血縁も何もない二人が本当に何かを築くことができるのだろうか。例えば、母と娘のように何があつても信じあい、味方でいる。姉と妹のようにお喋りをし、相手の幸せを自分のことのようになれる喜ぶ。そんな風になれるだろうか。

ハンカチで目元を拭うと、薄暗くなつた窓ガラスに映つた自分と目が合つた。^{※6 ほん}辛氣臭い顔だと思う。朝子の言う通り、少しあにこりとしてみたら何かが変わるかもしれない。^はほんの少し口の端を持ち上げて笑うとちょっとだけ桜子の顔に似ている気がした。

にやあ、とシェリの鳴く声が聞こえる。

窓を開け覗き込むと、彼もまた茜を見上げていた。

「ねえ、私、信じていい?」

訊ねると、シェリはまた、にやあと鳴いて、興味なさそうに林の中へ入つていった。

分からぬけど好きにしたら。そう言われている気がした。

(宮西真冬『友達未遂』講談社より)

a 達観した

ア 感情をあらわにする

イ 誰に対しても冷淡な

ウ 物事を深く考えない

エ 何事にも動じない

b おかしな人

ア いい加減な人

イ 疑わしく思われる人

ウ 気の毒な人

エ おもしろそうな人

問一 線a「達観した」・b「おかしな人」とあります、本

の気持ちについて述べたものとして最も適当なものを次のAから選び、記号で答えなさい。

ア 自分は関係ないと思つていていたのに、突然自分が犯人であるかのように指摘され、衝撃を受けている。

イ 不意に自分が犯人であることを言い当てられ、何と言ひ詡してよいかわからなくなり、落ち着かなくなつていてる。

ウ 目立つことはしたくなかったのに急に皆の注目をあげてしまい、この場から逃げ出しなくなつていてる。

エ 自分は犯人ではないと知りながら、わざと自分を犯人に仕立てようとする朝子への怒りにかられています。

問一 線a「達観した」・b「おかしな人」とあります、本文における意味として最も適当なものを次のAからそれ選び、記号で答えなさい。

A 文における意味として最も適当なものを次のAからそれ選び、

問三　——線2「チエシャ猫のようになー品定めした」とあります

が、この時の「朝子」の気持ちについて述べたものとして最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。なお、「チエシャ猫」とは、『不思議の国のアリス』に登場する猫で、常にニヤニヤ笑っている猫のことです。

ア 自分が絵を破つたことを皆に知られないように、自分がきれいな茜を犯人だとということにしようと思つていて。

イ 以前から茜に見下されていたことの仕返しをするために、茜をこまらせてやろうと思っている。

ウ 犯人は茜であると決めつけることが、桜子と茜を遠ざけるまたとない機会になると思っている。

エ 茜をにくらしく思つてることを桜子に気づかれないように、できるだけ平静なふりをしようと思っている。

イ 犯人ではないのに朝子から謝れと言われたことで、以前、

家で大人たちから同じように扱われた過去を目の前につきつけられて混乱している。今泣いて謝つてしまったら、気が楽にはなるが自分自身を否定することになると考へ、自分を励ましている。

ウ かつて自分が悪くないのに謝れと家の人に責め立てられたのと同じことが再び起きてしまい、いたたまれずやじくてならない。今泣き出してしまったら、自分の考え方を上げることになつてしまふと思い、決して泣くまいとこらえている。

問四　——線3「瞳の縁に／＼前を向いた」とあります。この時

の「茜」の気持ちについて述べたものとして最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア これまでごく普通の家庭で育つたふりをしてきたが、朝子から犯人だと言われたことで思い出したくないつらい過去が

よみがえり、平静を保てなくなつてしまつた。今泣いて取り乱してしまつたら、複雑な家庭で育つたことを皆に知られてしまうと考え、必死に我慢している。

イ 犯人ではないのに朝子から謝れと言われたことで、以前、

問五　——線4「真っ青な顔をして、朝子は、はい、と頷いた」と

あります。この時の「朝子」について述べたものとして、あてはまらないものを次のなかから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 絵が破られた時に自分が茜と一緒にいたので、茜は犯人ではないと桜子が言い出すとは予想していなかつたため、焦つてしまい、どうしたらよいかわからなくなつていてる。

イ 桜子とは意見が食い違つてしまつたことに加えて、茜の行動を疑うことを桜子が望んでいないとわかり、気まずくなつてゐる。

ウ 気に入られたいと思つてゐる桜子が茜は犯人ではないと断言したため、さらに茜を疑い続けたら桜子に嫌われてしまふのではないかと考え、これ以上追及できなくなつてゐる。

工 茜が四階から一人で降りてくるところを自分が目撃したのも、茜が千尋と離れていたほんのわずかな時間だつたと知り、自分の早とちりに気づいて後悔している。

問六 線5 「まるで絵本の中の魔法使いのようだつた」とありますが、ここから、「桜子」は仲間の中でのような存在だと考えられますか。「魔法使い」という言葉に注意してていねいに説明しなさい。

問七 線6 「ほんの少し口の端を一似ている気がした」とあります、この時の「茜」の気持ちについて述べたものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 今まで誰に対しても心を許したことがなかつたが、桜子が皆の前で証言してくれたことで誤解をとくことができたため、これからは皆が自分を信じてくれるはずだという確信をもち始めている。

イ 皆が従つてゐる桜子が自分をかばつてくれたことで、これからはもう誰も自分を攻撃しなくなるだろうと考えて安心し、信じ合える友人をつくるために自分から働きかけてみようと思ひ始めてゐる。

ウ これまで、なかなか人を信じることが出来なかつたが、桜子が皆の前で堂々と犯人は自分ではないとかばつてくれたことがうれしく、桜子と信頼関係をつくりたいと希望をもち始めている。

エ 肉親の愛情がどのようなものか知らなかつたが、思いがけず桜子が自分を信じてくれていたことがわかり、これから本当の家族になつてもらいたいと桜子にお願いしてみようと考え始めてゐる。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「恰好が良い」

の使用例を見ていると、まず気がつくのは、それが自然に対しては用いられておらず、基本的に人間のすること、作つたもの

に対して使用されている、ということである（但し、庭木やペットなどのように、一度、人間の生活に入った動植物は、その評価の対象になる）。つまり、自然美という人間には手出しの出来ない世界が基準とされているわけではなく、「恰好」の理想像は、社会的なものだ、ということである。

そうなると、その人為的な理想は誰が作っているのか？ そして、その適合具合は誰が判断するのか？

美に関して、ヒュームはそれを「批評家」だと言った。江戸時代や明治時代の「恰好が良い」は、果たしてどうだつただろうか？ 和菓子職人の例で言うと、師匠は勿論、批評家ではないが、知識と経験から、その判断力を体得している。しかし、新米の弟子にはまだ難しいだろう。菓子職人ではないが、茶人には当然、「恰好が良い」と「カッコいい」との違いについても、そろそろ考えていこう。

「恰好が良い」という言葉は、これまで見てきた通り、江戸時代に生まれて、そのまま今日にまで至っているが、一九六〇年代に「カッコいい」が爆発的に流行したほど、日常会話で多用されていたわけではなかつた。

なぜか？

一つには、何が「恰好が良い」のか、それを社会的に共有するメディアが限定されていたからである。

和菓子職人の師匠は、代々受け継がれてきた「恰好が良い」和菓子を目ににする機会があるからこそ、その理想形を知っている。また、常連の顧客のみならず、茶人や通人、目利き、見巧者と呼ばれる人たちも、基本的には、自分の目で見て、手で触り、味を確かめることで、その趣味を洗練させていったのだろう。

つまり、「恰好が良い」ものの理想は、理想的な「恰好が良い」ものによって教えられる、というわけである。従つて、江戸の菓子職人の理想が、北海道から九州まで全国津々浦々に共有される、ということはまず以て不可能だつた。

しかし、今日私たちは、テレビや雑誌、インターネットといったメ

つまり、それぞれのジャンル毎に理想があり、それと対象との合致具合には程度があり、それを判断する人にも序列がある、ということである。決して、□ X □、というわけではない。

では、その理想は、どのようにして共有されていたのだろうか？

通りすがりの若い女性の髪型はどうか？ こちらは、その「恰好が良い」の趣味が、より一般に開かれている。それでも、誰でも判断できるわけではなく、やはり髪型についての一定の知識が必要で、基本的には子供よりも大人の方が、より的確に「恰好が良い」かどうかを見極められるはずである。

デイアを通じて、ある程度、どういう和菓子が「恰好が良い」かを知っているのである。

「恰好が良い」が、直接的な対人関係の中で、具体的な事物に接して発せられる言葉だったのに対し、「カッコいい」は、マスメディアによつて、その想像像の共有を^{とくめい}匿名の人々の間にまで浸透させ、全国規模に拡大した。和菓子の想像像は、なるほど、メディアを通じて、多くの人に共有されることになったであろう。従つて、「カッコいい」という言葉の中には、「恰好が良い」という意味も残存している。

しかし、他方で、更に国内ばかりか外国との情報交換まで盛んになり、一般の参入者も増え、「カッコいい」は多様化し、同時に競争を激化させていった。²伝統ある和菓子職人の洗練された「恰好が良い」という趣味は、ビジネス的には、新時代の職人の「カッコいい」という感覚に敗北することもあり得るのである。

だからこそ、子供たちは、自由な「カッコいい」和菓子は作ることが出来ても、「恰好が良い」和菓子は作ないのである。

但し、先ほども触れた通り、「カッコいい」は、「恰好が良い」という意味を吸収している。つまり、「今日の髪型、カッコいいね。」という日常会話は普通だが、これは江戸時代に髪型を表して言つた「恰好が良い」と同じであり、ある想像像との合致を意味している。しかし、「カッコいい」にはそれとは違つた独自の新しい意味があり、だからこそ、「カッコいい」ものを訊ねて、子供が「髪型」と答えるのはオカシイのである。

つまり、一九六〇年代以降、今日に至るまで、「カッコいい」は、スポーツカーとカラーテレビ、^{※4}ネイマールとEXILE、バーキンと困つている人をさりげなく助けること（！）とを、同列に並べて、何が一番かを比較し得るような新しい意味を獲得した、ということになる。

それこそが、私たち^{※6}が第1章で確認した「カッコいい」であり、それは必ずしも「恰好が良い」から直接に派生した意味ではないのである。

「恰好が良い」から「カッコいい」へと変化する間に起きた最も大きな出来事と言えば、当然に第二次世界大戦である。この総動員体制の経験の影響は、非常に複雑である。

とりあえず、こういう見当はつくだろう。

ヨーロッパは市民社会の成立によつて、ブルジョワたちの個人主義とそれに基づく趣味判断の多様性^{※8}を是認した。その時、問題とされたのは、芸術の「美」であった。他方、戦後は、その個人主義が、ロツ

クに象徴される新しい文化を中心に、労働者階級の若者たちを主役として再燃することとなる。それが、大西洋を横断しながら爆発的なブームを巻き起こしていく。敗戦によって、天皇に一元化された総動員体制から解放された日本人は、その潮流に巻き込まれながら、彼らの価値観を導入しつつ、「恰好が良い」を「カッコいい」へと更新し、自分たちの理想としたのである。

だからこそ、「カッコいい」は、画一的な上からの押しつけではあり得ない。⁴

(平野啓一郎『カッコいい』とは何か 講談社より)

a 派生した

ア 特定の意味が強調された

イ 時間がたつて意味が変化した

ウ もとの意味から分かれてできた

エ 意味が新たにつくられた

b 潮流

ア 立場の入れ替わり

イ 常識の乱れ

ウ 広範囲の退化

エ 世の中のなりゆき

問二 空欄 X にあてはまるものとして最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア 理想との合致具合を判断できる人が限定される

イ ジャンル毎の、理想を知っている必要がある

ウ どんな人間にも共通した、自然な趣味がある

エ いくつものジャンルに精通している趣味人がいる

問三 —— 線1 「テレビや雑誌、インターネットといったメディア」とありますが、現代の「メディア」は、文中の和菓子においてどのような役割を果たしていますか。最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア 「カッコいい」和菓子の想像像がどのようなものであるか
ける意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号を、時代をこえて多くの人々に共有させる。

問一 —— 線a 「派生した」・b 「潮流」とありますが、本文における意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

イ 「恰好が良い」和菓子が「カッコいい」和菓子に含まれることを、現代の人々に伝える。

ウ 「恰好が良い」和菓子はどのようなものであるかを、専門性や地域をこえて多くの人々に伝える。

エ 「カッコいい」和菓子が「恰好が良い」和菓子よりも価値があることを、現代の多くの人々に共有させる。

問四 線2 「伝統ある～」であるとあります。その理由として最も適当なものを次の（）から選び、記号で答えなさい。

ア わかりやすく消費者に受け入れられやすい「カッコいい」物に比べて、専門的な知識を必要とする「恰好が良い」物は商品としてあまり売れないのであるから。

イ 伝統的な職人世界における「恰好が良い」の意味よりも、一つのジャンルにおける「カッコいい」の意味の方が洗練されていると思われる場合もあるから。

ウ いくらメディアが日本における伝統的な「恰好が良い」物を世界に広めたとしても、外国の人々には理解されにくいういう場合もあるから。

エ メディアによつて、面識のない多くの人々にも、「カッコいい」の意味も含んだ、ゆるぎない「恰好が良い」理想像が広く受け入れられることがあるから。

問五 線3 「子供たちは～作れない」あります。その理由として最も適当なものを次の（）から選び、記号で答えなさい。

ア 「カッコいい」という感覚は長い歴史を経て形成された後、多くの人に共有されるが、「恰好が良い」という判断は個人によつて異なるから。

イ 何が「カッコいい」かは子供でも判断できるが、あるジャンルにおいてどのようなものが「恰好が良い」かを判断するための知識や経験が、子供たちにはないから。

エ ある対象が「恰好が良い」かどうかは大人から教えられて身につける判断だが、「カッコいい」は、子供の成長につれて変化する感覚だから。

問六 線4 「カッコいい」は、～あり得ないあります。その理由として最も適当なものを次の（）から選び、記号で答えなさい。

ア 近代化によつて新しい価値観をもつ若者の文化が生まれ、社会がこれまでの文化を否定するようになつたから。

イ 戦後になつてヨーロッパのブルジョワたちがもたらした文化が、若者の理想とされるようになったから。

ウ 西洋のブルジョワたちから労働者階級に広がつた個人主義を受け入れ、人々が自分たちの理想を考えるようになったから。

エ 労働者階級の若者たちを中心とする文化は、ヨーロッパの近代化によつて世界的なものになつたから。

問七 本文全体をふまえて、筆者の考えに合っているものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア 一九六〇年代に「カツコいい」が流行したのは、さまざま
なメディアが発達したことと、ヨーロッパの影響を受けて
人々の趣味が洗練されたことが要因である。

イ 「カツコいい」は、江戸時代まで用いられていた「恰好が
良い」とは一部共通する意味をもつていたが、メディアの介
入によつて、その意味を次第に失つていった。

ウ 限られた職人だけが共有する理想であった「恰好が良い」
は、師匠から弟子へ教えられることで伝承されたが、「カツ
コいい」は基準がなく、価値がないものである。

エ 「カツコいい」は、ヨーロッパから入ってきた価値観にも
とづく評価として広く用いられるようになり、異なるジャン
ルの間であつてもそのように判断することができる。

〔国語〕

解答用紙（中学第三回）

受験番号

氏名

得点



(あ)

こうかい

(い)

さんみやく

(う)

きしゅ

(え)

かりる

(お)

せいのう



問一

a



b



問二



問三



問四



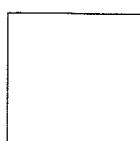
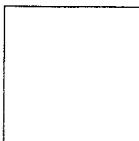
問五



問

六

--	--	--	--	--	--





問

五



問

一

a



問

六



問

二



問

七



問

三



問

四

